

をる 祭す 楽画 音企

音楽祭を企画するのは大変な作業である。

演奏に適した場所と、出演してくれるアーティストを見つけてくると、極端な言い方をすれば素人にもできる。肝心かなめのポイントは、そこに十分な聴衆を動員できるか、という事だ。どんな素晴らしい企画も、ふたを開けてみたら客席が閑古鳥かんこどりでは何にもならない。

さすがヨーロッパには毎年の行事として定着した音楽祭が数多くある。有名なウィーン音楽祭やザルツブルク音楽祭などには超一流のアーティストが出演し、聴衆も世界中から訪れる。チケットも高価な上に入手困難だ。聴衆の質も一流だが、ここに招聘されたアーティストのプライドもなかなかなものという、いわば「ブランド商品」だ。

オーストリアの南、ケルンテン州にフィラッハという街がある。このこと、ここから車で15分程離れ

カリンティッシャー・ゾンマーの垂れ幕が町中に飾られている



音楽祭のメインホールとなるコングレスハウス正面

た風光明媚な湖のほとりにある街オシアッハの会場を活用して、毎夏「カリンティッシャー・ゾンマー」という音楽祭が催される。もう20年も続いてきた由緒あるお祭りだ。

フィラッハにあるホールはコングレスハウスといい、オーケストラなど編成の大きなものを中心に。オシアッハではその教会やバロックザールという場所で室内楽やリサイタルが楽しめる。

このフェスティバルの存在は最近日本でも知られるようになり、コンサートのライヴ録音がNHKのFMから特集として放送されるようにもなった。音楽祭で催されるコンサートは全てオーストリア国营放送局によって収録され、その後順次オーストリア国内でもFMを通じて放送されている。

若いアーティストを紹介するコンサートも催される。その中でもユニークなのは「フェステイヴァルのスターが後輩を紹介します」という企画。世界的に知名度が高いアーティストが自分でも演奏する一方、同じステージで、これぞ、と思う新進アーティストを紹介するのだ。

1989年夏、この企画で日本指揮界の期待をあげる佐渡裕君ゆたかがデビューした。それもレナ



開演を待つ満席のコンサート会場

コングレスハウスを背に



ド・バーンスタインという大物の紹介によってである。
バーンスタイン自身はパリにおけるフランス革命200年祭コンサートのスケジュール調整がどうしてもうまくいかず、フィラッハに來られなかったが、コンサートは大盛況だった。